

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームともえ 1F		
所在地	静岡県葵区上土1丁目17-95		
自己評価作成日	平成27年8月26日	評価結果市町村受理日	平成27年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaogosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の高齢化が進んでおり外に向けた支援はあまり取り組みにくくなっています。日頃からホームの生活が穏やかでゆったりした時間が流れるよう周知しています。季節感を感じていただけるよう季節ごとの食べ物や風景を目のつくところに飾ったりしています。お通い犬のわんこがおり利用者・ご家族・職員の気持ちを穏やかにしてくれています。保育園が隣にあり、日頃から園児が遊ぶ様子を眺めることができます。年に4回ほど交流の場があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長の介護に対する暖かい情熱が全職員に伝わり、毎日数時間絵を描いていた人、はさみで布切れを作る人、毎朝入浴したい人などの利用者一人ひとりの思いを尊重し、その人らしい生活への個別ケアに反映されている。同一敷地内の隣接した保育園の園児たちとの自然な触れ合い、保育園との災害時の協力も取り付けている。かかりつけ医と在宅訪問診療の両立により納得のいく受診で、適切な医療が受けられ、入院や外部受診の通院付き添いの軽減と、利用者、家族の負担も減少している。4月より試験的に2階のみ調理専門職員が採用され、介護に専任できる職員の個別ケアが実施されることが期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	隣接している保育園の事も踏まえ、職員が自分達で理念を考えている。保育園との関係や、近所のお店への買い物など、できる限り地域との交流を心掛けて実践している。	「ともえ川のほとりにもっと、その人らしくえんじの笑顔にかこまれて」の理念は社員研修・新人研修のオリエンテーションで共有している。施設長は職員に「資格より心」をモットーに、ゆったりとした自然体の生活を伝えていて、その人らしいケアを実践している。	事業所は10年を契機に理念の見直しを考えているところであり、全職員で話し合い職員のケアの拠りどころとなるような理念の作成に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会やお祭り、敬老会など地域の行事に参加している。利用者様と一緒に近所への買い物を行うことで、近所の方に顔を覚えていただいている。回覧板に行事のピラを入れさせてもらうこともある。	隣接保育園の園長を含め園児との日常的な交流がある。近くの地元スーパーでの買い物、道を挟んだ無人販売で野菜を買う時や、近くに流れるともえ川の鯉の餌やりなどで近隣の住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事(お祭りや防災訓練)の際には回覧板にてお知らせを行っている。また、散歩をしている際などに気になる方を見た際には声かけを行うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、単独外出や、防災訓練などを巻き込み、運営推進会議などで、地域の皆様の声を聞き、それを踏まえて職員と話し合いを行い結果を報告している。	流しそうめんや忘年会など参加しやすい行事に推進会議を兼ね家族等の意見を聞けるように配慮し、サービス向上に活かせるようにしている。包括職員・自治会長・民生委員・園長・老人会会長・家族・利用者が毎回ではないが参加し年6回開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方がいるため、生活支援課の方との連絡は行っているが、高齢福祉課などとの連絡は頻回ではない。運営推進会議には地域包括の方に参加していただいている。	総合病院の研修・介護保険制度の説明、グループホーム連絡協議会、地域包括主催の年1回の会議などに参加し市と協力関係を築いている。月1回介護相談員の訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は19:00~6:00の時間帯で施錠している。また、身体拘束について必要に応じ会議などで話し、身体拘束についての知識を身につけていただいている。	毎月ユニットリーダーを中心にしてカンファレンスで身体拘束をしないケアについてヒヤリハットや、事故に関して話し合いをしている。ベッドや椅子からの転落・転倒予防など危険な人への対応について、個々にあった危険防止対策を工夫している。	

静岡県(グループホーム ともえ1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修、ホーム内研修を通じて、虐待についての研修を行っている。 また、日頃のケアで虐待などが行われないように注意を払っている。特に言葉の虐待に関してはお互いに注意するように促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で権利擁護、成年後見についての研修を行っている。 また、実際に制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、メリットだけでなく、デメリットについてもきちんと説明を行い、理解を得ている。 また、不安や疑問などについては、その都度説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の様子をご家族様に解るように毎月手紙を送らせていただいている。また、必要に応じて電話連絡を行い様子を伝え、相談させていただいている。家族と話し合った内容は申し送りノートやユニット会議などで職員に伝え、希望に添えるように話し合いを行っている。	毎月、各自担当職員が家族宛に健康状態や生活状況を写真入りで「ともえ通信」として送り、様子を伝え、家族との意見交換になっている。家族から「歩かせて欲しい・運動させて欲しい」などの個人的な要望はあるが運営に関する内容のものはない。玄関に意見箱の設置があり、社長に届く仕組みになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議などを開催し、そこでコミュニケーションをとり、反映している。 また、申し送りノートなどを利用して意見の交換などを行っている。 その他にも、必要に応じて職員と管理者で面談を行い、意見などを聞いている。	職員から申し送りノートや日ごろの会話から意見が出されている。意見はまずユニットリーダーを介して3ヶ月に1回の全体会議で話し合い検討している。ケア方法についての提案はよくあり、「まずやってみて」よければ即検討するようにし、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修や、交流研修などの場を提供してくださることで、向上心を高めてくれている。 また、生活しやすいように必要に応じて環境の整備を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者会議、管理者面談を行うことで、代表者は管理者の実力などの把握を行っている。また、職員の力量に合わせ、職員が職員に対しホーム内研修を行うように促している。外部研修に参加した際は報告会をしている		

静岡県(グループホーム ともえ1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や、委員会活動、社内研修や交流研修などを開催し、他のホームの職員と交流を図れる機会を提供していただいている。また、お祭りやその他の行事など他のホームとの交流を持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントで本人様の不安を聞き、職員全員に目を通してもらい、申し送り、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に不安なこと、不満な事などを話していただけるように努め、訴えがあった際には納得していただけるよう説明し、耳を傾け、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけご家族様の希望を取り入れている。 面会時、電話等で親しみやすく話せる環境を作ることで、信頼関係を築くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりが何が出来るのか、何を支援しなければならないのかを常に考え、その方にふさわしい日常の過ごし方を考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様や友人が訪れた時には、日頃の様子を伝え、お互いに情報の共有を行いながらケアを行っている。 また、行事などに参加していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族やその他の親族様との関係は継続できるように、自由に面会来ていただいている。	病院の受診の帰りに以前通っていた院内デイに寄って友人に会ってくる人や秋葉山祭りや七夕など馴染みの場所に行きたい人への支援をしている。クリスチャンの友人の訪問があり、クリスマスには賛美歌を歌いに来てくれ皆で聴いている。	

静岡県(グループホーム ともえ1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。自室にこもられる方には日中何度か声掛けを行い、集団に馴染めない方には、個別で対応などを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居なさった方へのお見舞いや、ご家族様にアルバムを渡すなどといったことを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中に、その方の本心が出るような話の運び方や、その方の行動から本心を汲みとるよう努めている。	自分から思いを表出できない人もいるが、入居時に聞いたアセスメントから趣味・好みを基に声掛けすることでやってみたいことが把握できることがある。毎日絵を描きたい人の作品を玄関や居間などに飾って意欲が落ちないように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の事を話して下さる際に、会話の中でどう過ごされてきたのか、今はどう思っているかなどを引き出す努力を行っている、また、ご家族様からも情報を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に健康状態には注意を払い、見守りの中からも、心理状態の変化に気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートやユニット会議で情報の共有を行っている。 たま、ユニット会議ではよりより支援方法を話し合い、介護計画に反映させ、実践している。	月1回ユニット毎カンファレンス、担当者会議を実施し、短期長期の計画書の見直しを行っている。 本人には生活の会話の中で意見を聞いていて、医師や訪問看護師からの意見を基に計画書を作成、家族に郵送し、意見を記入してもらっている。 出来上がった計画書は全職員で見て印を押すようにし共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケース記録、モニタリングなどを記入し、職員同志、情報の共有を行い、必要に応じて、介護計画の見直しを行っている。		

静岡県(グループホーム ともえ1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい試みや、問題点があれば話し合い、その方がどのようにすることを望んでいるのかを見極めるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	信仰などに配慮し、出来る限りの協力は行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者様は在宅訪問診療に移行したが、ご家族の希望によりかかりつけ医での対応をしている方に対しては情報提供をしている。	在宅診療所(内科・他科受診も可能)の協力医からの頻回の訪問診療で健康管理され、外部受診の困難さが解消されている。今までのかかりつけ医を継続の人には受診時必要な情報を提供し、家族と結果の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護が入ることで、早期発見・早期治療にあたっている。 また、適切な情報を提供することにより、的確な指示を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した病院の相談員やご家族様との連絡を密にし、本人様の状態の把握に努めている。また、お見舞いに伺った際などに、状況の確認を行っている。 退院時には医師との話し合いにも参加するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意思を尊重している。看取りに関しては医師・看護師・ご家族・職員が可能と判断したら実施はしている。眼段階では在宅訪問診療の移行したため以前に比べれば実施はしやすくなっている。	医療機関や家族と事前からの終末期の話し合いや意向の確認は難しく、基本的に食事が取れなくなった時に医師と家族と話し合い、在宅診療所との連携、家族の協力が得られる場合に事業所で看取りは可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、職員に研修を行っている。また、医師・看護師などに連絡し必要に応じて指示をいただく。 消防署を招いての応急処置の方法などの講習なども行っている。		

静岡県(グループホーム ともえ1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを配布し、研修もやっている。また、定期的に防災訓練を行い、日中・夜間を想定した内容で確認を行っている。また、地域住民の協力を得て訓練を行っている。	風水害・防災マニュアルを作成し、安否確認・通報の訓練など行っている。11月・5月に地域の協力を得て訓練を実施している。保育園の園長から園児を親に引き渡した後、援助協力の申し出がある。液状化の心配があるので備蓄は2階の廊下に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ちよく毎日を過ごしてもらえるよう、会話の中にも尊重している事が相手に伝わるように努力している。	一人ひとりの人格を尊重し、個別にその人らしい生活の支援に心がけ、声掛けは性格に合わせて丁寧語を使い、穏やかな対応をしている。トイレ誘導はなるべくトイレと言わず、「ちょっと行きましょうか」やりハビリパンツの呼び方を工夫してプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる方に関しては、どちらが良いか、今何がしたいのかなど、こちらが決めずに本人様に促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活といっても、個々のペースを優先し、必ずしも一緒に、一斉に何かをしなくても良い配慮を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、その人に似合う服を本人に同意を求めながら選び、外出時はとくにおしゃれをするよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど出来る事は利用者様と一緒に関わるように努めている。また、食事の時間をゆっくり過ごせるよう、ゆっくり座り会話などを行い、交流を深めている。	1階は職員が交代で3食作り、2階は週4日2食は調理専門職員が作っている。「蕎麦が食べたい」などの利用者の希望を取り入れるようにし、職員と一緒に同じ物をゆっくり話をしながら食べているが、次の食事に影響がある為1時間以上にはならないようにしている。	

静岡県(グループホーム ともえ1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の水分量・食事量の把握を行っている。お茶の飲みこみの悪い方にはお茶ゼリーを提供するなどの工夫を行っている。また食事量が少ない方には、本人様の食べたいものなどを用意するなど行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で歯磨きの出来る方は継続できるように声かけをし、環境を整えるよう努めている。出来ない方に関しては、口腔ケアの道具やウエットティッシュなどで対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の少ない方には布の下着にするなど、その方の現状に合わせた対応をしている。また、夜間はおむつにするなど、1日の中でその方にあった身体とのバランスを考え対応している。	個々の排泄パターンを把握し、車椅子・シルバーカー・杖について職員の介助・見守りの中、昼はトイレでの排泄をする支援をしている。夜は安眠を優先しゆっくり休む支援をしている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	表を利用したり、排便の有無やタイミングの確認を行っている。毎朝牛乳を飲んでいただいたり、下剤の服用など、個人に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時に喜び、楽しんでいただけるように、入浴剤を使用したり、散歩から戻ったタイミングなどに合わせている。	基本は10時から16時の間を予定しているが毎朝8時半頃入浴をする人、一人で鍵を掛けて入る人、風呂場で下着の洗濯をする人等の夫々のスタイルに合わせて支援している。拒否する人には言葉掛けに工夫することで入浴に至ることがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状況に合った寝具を(畳・ベッドなど)使用することで、入床環境を整備している。また、夜間の睡眠が確保できるように、日中は散歩や、家事などを促し、動いていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬のファイルを作成し、薬の知識を深め、その方の体調の変化に合った薬を服用出来るよう、医師などに相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、入浴などを含め、庭でのランチなどを盛り込むことでメリハリのある生活を提供するよう努めている。		

静岡県(グループホーム ともえ1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	富士山が好きな方にはドライブで見える所に行ったり、出身地のお祭りの見物など、それぞれの希望や気持ちをくみ取り、出来る限り叶えられるように努めている。	事業所の前の無人販売に買いものに行ったり、庭に出て花を見る、園児の様子を見て手を振り合うなど外気浴をしている。家族と一緒に受診の帰りに外食や自宅に行く人やお盆のお墓参りに出かけている。レクリエーションで希望の所へ出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足やお祭りなどの外出の時には個人用のお小遣いを用意しているが、金銭管理が出来る方が少ないのが現実である。個人で持っていたいと希望する方に関しては個人で金銭の管理をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限などをしていないが、本人様の状態が落ち着かない時など電話口で話してもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の反応を見ながら改善している。、状況をみて安心して生活していただける空間を作っている。季節感が出るた目の装飾等はしている。	事業所内全体に季節感を感じる飾りがされている。絵画の得意な人の作品の定位置があり、玄関やホールに作品が飾ってある。玄関に熱帯魚の水槽があり目の保養になっている。インフルエンザ予防対策に加湿器が5台用意されている。園庭から園児の声が聞こえ癒しにつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は気の合う者同士、一緒にテーブルになるよう配慮している。またソファや廊下のベンチを利用し、空間の演出を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しかった思い出の写真や、季節を感じる飾り方など、家族の協力も求め、生活感のある明るい雰囲気のある居室を演出している。	自分の部屋の確認の為、家族の協力でデイスサービスでの作品を入りに飾ってある人、大事にしていた人形をケースに入れ持ち込んでいる人、家族の写真や壁に貼っている人など夫々その人らしい居室になっている。居室担当職員が衣類他整理整頓をして清潔な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を把握し、入浴など一人で出来る方に関しては、自分で行っていただいている。トイレ・浴室・階段・廊下には手すりを設けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームともえ 2F		
所在地	静岡県葵区上土1丁目17-95		
自己評価作成日	平成27年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaogosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の高齢化が進んでおり外に向けた支援はあまり取り組みにくくなっています。日頃からホームの生活が穏やかでゆったりした時間が流れるよう周知しています。季節感を感じていただけるよう季節ごとの食べ物や風景を目のつくところに飾ったりしています。お通い犬ののわんこがおり利用者・ご家族・職員の気持ちを穏やかにしてくれています。保育園が隣にあり、日頃から園児が遊ぶ様子を眺めることができます。年に4回ほど交流の場があります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	隣接している保育園の事も踏まえ、職員が自分達で理念を考えている。保育園との関係や、近所のお店への買い物など、できる限り地域との交流を心掛けて実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会やお祭り、敬老会など地域の行事に参加している。利用者様と一緒に近所への買い物を行うことで、近所の方に顔を覚えていただいている。回覧板に行事のビラを入れさせてもらうこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事(お祭りや防災訓練)の際には回覧板にてお知らせを行っている。また、散歩をしている際などに気になる方を見た際には声かけを行うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、単独外出や、防災訓練などを巻き込み、運営推進会議などで、地域の皆様の声を聞き、それを踏まえて職員と話し合いを行い結果を報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方がいるため、生活支援課の方との連絡は行っているが、高齢福祉課などの連絡は頻回ではない。運営推進会議には地域包括の方に参加していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は19:00~6:00の時間帯で施錠している。また、身体拘束について必要に応じ会議などで話し、身体拘束についての知識を身につけていただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、ホーム内研修を通じて、虐待についての研修を行っている。また、日頃のケアで虐待などが行われぬように注意を払っている。特に言葉の虐待に関してはお互いに注意するように促している。		

静岡県(グループホーム ともえ2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で権利擁護、成年後見についての研修を行っている。 また、実際に制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、メリットだけでなく、デメリットについてもきちんと説明を行い、理解を得ている。 また、不安や疑問などについては、その都度説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の様子をご家族様に解るように毎月手紙を送らせていただいている。また、必要に応じて電話連絡を行い様子を伝え、相談させていただいている。家族と話し合った内容は申し送りノートやユニット会議などで職員に伝え、希望に添えるように話し合いを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議などを開催し、そこでコミュニケーションをとり、反映している。 また、申し送りノートなどを利用して意見の交換などを行っている。 その他にも、必要に応じて職員と管理者で面談を行い、意見などを聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修や、交流研修などの場を提供して下さることで、向上心を高めてくれている。 また、生活しやすいように必要に応じて環境の整備を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者会議、管理者面談を行うことで、代表者は管理者の実力などの把握を行っている。また、職員の力量に合わせ、職員が職員に対しホーム内研修を行うように促している。外部研修に参加した際は報告会をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や、委員会活動、社内研修や交流研修などを開催し、他のホームの職員と交流を図れる機会を提供していただいている。また、お祭りやその他の行事など他のホームとの交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントで本人様の不安を聞き、職員全員に目を通してもらい、申し送り、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に不安なこと、不満な事などを話していただけるように努め、訴えがあった際には納得していただけるよう説明し、耳を傾け、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけご家族様の希望を取り入れている。 面会時、電話等で親しみやすく話せる環境を作ることで、信頼関係を築くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりが何が出来るのか、何を支援しなければならないのかを常に考え、その方にふさわしい日常の過ごし方を考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様や友人が訪れた時には、日頃の様子を伝え、お互いに情報の共有を行いながらケアを行っている。 また、行事などに参加していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族やその他の親族様との関係は継続できるように、自由に面会来ていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。自室にこもられる方には日中何度か声掛けを行い、集団に馴染めない方には、個別で対応などを行っている。		

静岡県(グループホーム ともえ2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居なさった方へのお見舞いや、ご家族様にアルバムを渡すなどといったことを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中に、その方の本心が出るような話の運び方や、その方の行動から本心を汲みとるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の事を話して下さる際に、会話の中でどう過ごされてきたのか、今はどう思っているかなどを引き出す努力を行っている、また、ご家族様からも情報を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に健康状態には注意を払い、見守りの中からも、心理状態の変化に気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートやユニット会議で情報の共有を行っている。 たま、ユニット会議ではよりより支援方法を話し合い、介護計画に反映させ、実践している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケース記録、モニタリングなどを記入し、職員同志、情報の共有を行い、必要に応じて、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい試みや、問題点があれば話し合い、その方がどのようにすることを望んでいるのかを見極めるように努めている。		

静岡県(グループホーム ともえ2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	信仰などに配慮し、出来る限りの協力は行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者様は在宅訪問診療に移行したが、ご家族の希望によりかかりつけ医での対応をしている方に対しては情報提供をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護が入ることで、早期発見・早期治療にあっている。 また、適切な情報を提供することにより、的確な指示を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した病院の相談員やご家族様との連絡を密にし、本人様の状態の把握に努めている。また、お見舞いに伺った際などに、状況の確認を行っている。 退院時には医師との話し合いにも参加するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意思を尊重している。看取りに関しては医師・看護師・ご家族・職員が可能と判断したら実施はしている。眼段階では在宅訪問診療の移行したため以前に比べれば実施はしやすくなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、職員に研修を行っている。また、医師・看護師などに連絡し必要に応じて指示をいただく。 消防署を招いての応急処置の方法などの講習なども行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを配布し、研修も行っている。また、定期的に防災訓練を行い、日中・夜間を想定した内容で確認を行っている。また、地域住民の協力を得て訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ちよく毎日を過ごしてもらえるよう、会話の中にも尊重している事が相手に伝わるように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる方に関しては、どちらが良いか、今何がしたいのかなど、こちらが決めずに本人様に促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活といっても、個々のペースを優先し、必ずしも一緒に、一斉に何かをしなくても良い配慮を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、その人に似合う服を本人に同意を求めながら選び、外出時はとくにおしゃれをするよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど出来る事は利用者様と一緒に関わるように努めている。 また、食事の時間をゆっくり過ごせるよう、ゆっくり座り会話などを行い、交流を深めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の水分量・食事量の把握を行っている。お茶の飲みこみの悪い方にはお茶ゼリーを提供するなどの工夫を行っている。 また食事量が少ない方には、本人様の食べたいものなどを用意するなど行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で歯磨きの出来る方は継続できるように声かけをし、環境を整えるよう努めている。出来ない方に関しては、口腔ケアの道具やウエットティッシュなどで対応している。		

静岡県(グループホーム ともえ2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の少ない方には布の下着にするなど、その方の現状に合わせた対応をしている。また、夜間はおむつにするなど、1日の中でその方にあった身体とのバランスを考え対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	表を利用したり、排便の有無やタイミングの確認を行っている。毎朝牛乳を飲んでいただいたり、下剤の服用など、個人に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時に喜び、楽しんでいただけるように、入浴剤を使用したり、散歩から戻ったタイミングなどに合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状況に合った寝具を(畳・ベッドなど)使用することで、入床環境を整備している。また、夜間の睡眠が確保できるように、日中は散歩や、家事などを促し、動いていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬のファイルを作成し、薬の知識を深め、その方の体調の変化に合った薬を服用出来るよう、医師などに相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、入浴などを含め、庭でのランチなどを盛り込むことでメリハリのある生活を提供するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	富士山が好きな方にはドライブで見える所に行ったり、出身地のお祭りの見物など、それぞれの希望や気持ちをくみ取り、出来る限り叶えられるように努めている。		

静岡県(グループホーム ともえ2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足やお祭りなどの外出の時には個人用のお小遣いを用意しているが、金銭管理が出来る方が少ないのが現実である。 個人で持っていたいと希望する方に関しては個人で金銭の管理をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限などをしていないが、本人様の状態が落ち着かない時など電話口で話してもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の反応を見ながら改善している。、状況をみて安心して生活していただける空間を作っている。季節感が出るた目の装飾等はしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は気の合う者同士、一緒にテーブルになるよう配慮している。またソファや廊下のベンチを利用し、空間の演出を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しかった思い出の写真や、季節を感じる飾り方など、家族の協力も求め、生活感のある明るい雰囲気のある居室を演出している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を把握し、入浴など一人で出来る方に関しては、自分で行っていただいている。 トイレ・浴室・階段・廊下には手すりを設けている。		